

「話のたねのテーブル」より

山野草あれこれ(1)

廣田伸七

カラハナソウ<クワ科>

梅雨が明けて猛暑がやってくると、欲しくなるのが冷たいビール。ホップの香りが懐かしい。このビールに使われるホップに非常によく似た果穂をつけるのが、野生植物のカラハナソウである。カラハナソウは原野や山地、路傍の草むらなどに生育し、茎が細長いつるになって、やぶなどに覆いかぶさるように繁茂する。つるは丈夫で茎や葉柄に丁字形の棘状の毛がある。葉は卵円心形で長さ4~12cm、幅3~10cm、縁には鋸歯がある。

雌雄異株で、7~8月に雄花は円錐花序を出して花を咲かせる。雌花は2個の花が1個の苞につつまれ、径15~18mmの球果状に集まる。これが、ホップの球果とそっ

くりである。そのためホップにはセイヨウカラハナソウの別名があり、カラハナソウの母種である。夏にカラハナソウを探し匂いをかぐと香りがする。

エンビセンノウ<ナデシコ科>

園芸植物としても売れそうな美しい花を咲かせるエンビセンノウは、山地の原野や溪流沿い、やや湿った場所に生育する。花が美しいので庭などに植えられることもある。茎は円柱状で2本~数本直立し、高さ50~80cm、葉は対生し全縁。7~8月に花が咲く。花弁は3個で拡大部が4裂片ほどに深く裂ける。

この状態から「燕尾仙翁」の名がある。

(話のたねのテーブル No.223 より)



▲カラハナソウ、山野に生育し、夏に球果ができる



▲カラハナソウの球果、ホップに非常によく似る



▲エンビセンノウ、夏の樹林下ひっそりと咲く



▲茎は数本直立し、高さ50~80cm



▲花の状態から燕尾仙翁の名がある